

# にらめっこ

発行責任者 廣瀬邦治 印西市木下東4-6-13  
TEL/FAX 0476-42-5034 E-メール k\_hirose839@ybb.ne.jp  
印西・九条の会ホームページ : <http://inzai9jyounokai.webnode.jp/>



2020年 元旦

憲法9条を生かし 平和とくらしを守りましょう  
本年もよろしくお願い致します

## 戦争反対！ アメリカはイランへの軍事挑発をやめろ！ 自衛隊の中東派兵反対！

緊迫する中東情勢を受けて「総がかり行動実行委員会」は8日、東京・新宿駅前で緊急街頭宣伝を行いました。「戦争反対」などと書かれたプラカードを手に多くの人々が参加。市民や野党の代表がマイクを握って、関係各国は武力行使するなどアピールし、「安倍政権は今すぐ自衛隊の中東派遣を中止するべきだ」と声をあげました。





## たぶらかしを見ぬき、真実を告げよう

彦坂 諦

2019年の「漢字」は「令」ではなく「誑」ではないか、と言うひとがあらわれた（土肥有理、「東京新聞」12月21日「発言」欄）。言いえて妙、このところ、内閣府によるたぶらかしは眼にあまる。公文書の隠蔽どころか破棄。伊藤詩織さんをレイプした安倍御用記者が刑事で不起訴、民事で指弾された。日本国の刑事司法は世界中の嗤いものになった。安倍首相が「女性の輝く社会」を推進した結果「ジェンダーギャップ（男女格差）指数」は、世界153カ国のなかで121位にまで転落した（WEF世界経済フォーラムの調査結果、ちなみに中国は106位、韓国は108位）。景気はよくなっている賃金は上昇しているとアベノミクスの成果を誇示したが、労働者の実質賃金は低下している。これまた、たぶらかしにあらずしてなんぞや。

わたしたちはいま史上最悪最低の政権に支配されている。その原因は、あの敗戦時に、わたしたち民衆が真に民主的な政権を樹立しえなかったところにある。いまこの日本国を乗っとして支配しているのは、かつて、アジア太平洋全域で平和なくらしをしていた無慮無数のひとびとを殺し自国民をも殺させたあの大規模侵略戦争を企て実行し敗れた、その責任を回避し、戦後「民主主義平和国家」の代表者面をしていすわった、天皇裕仁を戴く旧「大日本帝国」支配階級直系の子孫たちなのだ。

敗戦時、軍と政府によって大量の公文書が焼却された。隠蔽するどころか廃棄しさえするのはなぜか？「たぶらかす」ためだ。証拠隠滅だ。この「伝統」は脈々と、安倍政権にも継承されている。

年があらたまっても、オリンピックなどと浮れているばあいではない。来るべき総選挙でわたしたちが打倒しなければならないのは、このやからからなる政権なのだ。しかもこの政権は戦前戦後を通して最大の長期政権になっている。なぜか？「国民」の「支持」をうけているからだ。

そんなことあるものか！ と言いたいだろう。しかし、この「支持」とは、たとえ形式的にすぎぬとはいえ総選挙という名の民主的手続によって実現されているのだ。「桜を観る会」でうれしそうに総理をかこんでいるひとびと、新天皇即位パレードに歓呼して日の丸の小旗を振っているひとびと、TVに映しだされるこうした映像が、この「支持」の内実をみごとに映しだしている。

たぶらかしは、いまのところ、成功しているようだ。「ほかにたよれる政党がない」といった消極的理由からであれ、安倍政権を支持している「国民」がすくなくからずいることは、否定できない。

わたしたちの直面している課題は、そうそうたやすいものではないだろう。わたしたち自身がぜったいにたぶらかされない力を身につけること。たぶらかされているひとびとに、真実を告げ、状況を正確に把握してもらうこと。

# ホルムズ海峡付近への自衛隊派遣について しっかりと国会で議論を

衆議院議員 宮川 伸

年が明けて急激に中東情勢が悪化しています。トランプ大統領の指示でイラン革命防衛隊のソレイマニ司令官が殺害され、それに対するイランの報復が始まりました。この様な緊張状態の中、1月11日に自衛隊のP3C哨戒機が中東に派遣されることになっています。昨年の12月27日に自衛隊の中東派遣が閣議決定されましたが、当時と今では状況が大きく変わっています。このまま派遣してしまってもよいのか緊急に国会を開いて審議すべきです。

そもそも、自衛隊の中東派遣に関しては国会で議論すべきだと言いつけてきましたが、派遣の内容が明らかになったのはまたもや国会が閉会してからでした。過去に、長距離巡航ミサイルやイーグリスアショアの購入も国会が閉まってから詳細が明らかとなりました。国会での議論は国民への説明や理解を深めるために重要です。安倍政権の国会軽視の姿勢は改めるべきです。

今回の閣議決定では、自衛隊は「調査・研究」が目的で派遣されます。「調査・研究」の場合、正当防衛以外は武器の使用が認められないので、日本タンカーが攻撃されても助けることはできません。そこで、そのような場合には「海上警備行動」に切り替えることになっています。

しかしここで問題となるのは、例えば、攻撃をしてきた船が他国の軍隊なのか、テロリストなのか、海賊なのかをどう区別するのか、ということです。他国の軍隊の場合、「海上警備行動」に基づいて攻撃することはできません。海賊の場合、アデン湾であれば「海賊対処法」に基づいて他国のタンカーの救援もできることとなります。安倍政権はこれらをきちんと説明していません。

米軍との関係も不明確です。「アメリカ有志連合には参加しないが、米軍と情報共有はする」と説明しています。しかし、なし崩しに自衛隊が米軍を後方支援するような状態にならないか、懸念されます。どのように歯止めをかけるのか、安倍政権はきちんと説明すべきです。イラク戦争の時に、憲法に反して、自衛隊が米軍兵士や武器をバグダットに大量に輸送していたことを忘れてはなりません。

そもそもこのような状態に陥った原因は、アメリカが一方的にイラン核合意から離脱したことです。もっと穏便に対応する方法があったはずですが、今回の閣議決定では第一に外交努力が上げられていますが、イランだけでなく、トランプ大統領にもしっかりとものを申すべきです。日米同盟は日本の平和を維持するために重要です。しかし、世界平和のために何ができるのか、単なるアメリカ追従ではなくて、日本独自の貢献を国会でしっかりと議論することも重要ではないでしょうか。



- ① 自衛隊派遣予定の海域：オマーン湾、アラビア海北部、バブルマンデブ海峡東側のアデン湾。ホルムズ海峡は公海ではないので派遣の対象としていない。×印は日本タンカーが襲撃された地点。ジブチには海賊対処のための自衛隊の拠点があり、ここからP3C哨戒機が飛び立つ予定。
- ② 2013年6月13日にホルムズ海峡付近で日本とノルウェーの海運会社が運航するタンカー2隻が襲撃された。
- ③ 派遣予定の護衛艦たかなみ  
 速度：30ノット（時速56 km）  
 長さ：151 m  
 乗員数：約175名  
 主要兵装：高性能20ミリ機関砲×2、54口径127ミリ速射砲x1、VLS装置一式、3連装短魚雷発射管×2、SSM装置一式、哨戒ヘリコプター×1



# 映画「明日へ ～戦争は罪悪である～」



老いた落語家が語り継ぐ、叛骨の僧侶の言葉

印西市にて上映決定!

2020年2月29日(土)

印西市ふれあい文化館

①10:00/②14:00/③18:00 (各回とも開場は30分前)

前売券 1000円 / 当日券 1500円

\*高校生以下無料 (要予約)

前売券のお問い合わせは  
0476-85-8828  
co@web-wisteria.com  
(一般社団法人ウイステリア内 加藤)

主催：文化芸術を愛する印西の会  
後援：印西市教育委員会



70年以上前の戦争の厳しい時代に抗して、立ち向かっていった信念の僧侶がいたとは、心打たれました。私も、幼少の時、洗礼を受けた者ですが、教会も戦争に協力させられたと教わりました。

二度と悲惨な戦争をしてはいけなと思います。

戦争を知らない若いみなさん、必見の映画です。

(K. H)

## 【前売券のお問合せ】

印西・九条の会 廣瀬邦治 TEL 090-1706-2572 メール；k\_hirose839@ybb.ne.jp

## 編集日誌

▼年明けの、何という愚かで乱暴な行為でしょうか。トランプ米政権が突如、イラン「革命防衛隊」精鋭部隊のソレイマニ司令官を攻撃し、殺害。しかも、現場はイラク領内で、同国の承認も得ていません

▼今回の攻撃はトランプ大統領の指示によるものです。ソレイマニ氏が米国の外交官や米兵への攻撃を画策していたとして、「戦争をやめるためだった」と正当化します。しかし、どのような理由をつけても、米国の行動は国際法上、違法行為となる先制攻撃であり許されません

▼そもそも、「戦争をやめるため」どころか、イラン側は軍事報復を明言し、米軍も3500人の増派を決定しました。中東に新たな戦争の火種を持ち込んだのは誰が見ても明らかです。泥沼化を懸念し、早くも世界各国のツイッターで「第3次世界大戦」がトレンド入りしています

▼大統領の命令一下、このような行為が可能なのは、世界中どこでも先制攻撃を可能にするため地球規模で軍事基地の網の目を張り巡らせているからです。

▼その米軍基地が世界で最も集中しているのは日本です。日米安保条約改定60年となる今年、日本が地球規模の侵略拠点になっている事実を見つめなおす必要があります。